

障害者施設商品の計数管理セミナー⑤工賃向上を目指す仕事起こし

日時： 2015 年 11 月 4 日

場所：梅田スカイビル タワーウエスト 2 2 階 会議室

【概要】

麦の郷における障害者就労支援

職種 クリーニング・印刷・食品加工・農業・直売所・飲食店・ウエス・カーメンテナンス

利用者 180 名 平均給料 3 万 9 千円

年金と併せて経済的自立を目指す

自立している人… 6 0 人 生活保護受給者… 9 人

保護者の支援を受けている人… 1 1 1 人

利用者の増加に伴い 2 0 0 0 年より新たな仕事起こしを

地域での障害者就労支援は難しい 経営体力のある企業が少ない

- ・利用者の給料が払える仕事起こしを 費用対効果を考慮
- ・ニーズや利用頻度の高いものを 利益率の確保

最初に始めた 3 種類の仕事

干物…消費頻度は高いが、仕入原価が高い

活性炭脱臭剤…値入率が高いが、消費頻度が低い

納豆…値入率が高く、消費頻度も高い

参考資料として 「家計調査年報」どの業種に可能性があるか検討

地域の消費動向を知る 商圏内の商品の年間需要を算出

地域と繋がり、仕事を見出す 資源を活かした 6 次産業

和歌山の場合は農林水産資源は豊富

作業所を脱皮した事業所を作りたい

2 次産業から手掛ける その原材料の確保として 1 次産業に参入

農産加工製造業…比較的計設備で始められる 特殊な技術等がいない

食料品は消費頻度が高く景気に大きく左右されない

こだわり(オンリーワン)商品の開発・地域の資源を活用

・釜焚き自然塩作り 紀伊水道の海水から…

・納豆製造 消費は日本一少ないが、製造業者が少ない→競争相手が少ない

食べる人は増えている→ねらい目

大豆を工作 利用者が脱穀 紀ノ川伏流水を使用

大豆…形の不ぞろいなものは黄な粉へ

おからを使ってコロッケやクッキー

豆乳を使って豆腐

枝分かれ式商品作り

地域の農家や農業団体と連携

農産物を使って…ほうれん草やにんじんのペースト・生姜をすりおろす

柑橘系の皮を粉砕

→それら使って 手焼き野菜入りせんべい

ペット用せんべい

利用者が中心になってできる事業へと展開

売れ行きの悪い夏季の商品作りにも挑戦

地域の歴史・文化を活かす商品づくり

…世界遺産熊野古道の色川茶を使って利用者が石臼を引いて作った粉末茶

地域の企業や各団体と協力関係を作る…そこからヒントを

福祉以外の関係者から技術を教わる 仕入れの仕方を教わる

→大手スーパーに納品可能に

商品づくりについても専門家から学ぶ…加工技術の蓄積

何が売れるのか、地域量販店を調査

衛生・品質管理を整備した食品加工作業場を作る

そこで、それぞれが得意とする作業についてもらう

(最重度の人についても)

利用者と職員が一緒になって仕事を作り、育てる

仕事人が人を変える

利用者の適性を引き出す→少しずつでも工賃アップ→お金を使える楽しみ

できるだけ利用者の要望を受け入れて運営

→受託製造を拡大

これからの取り組み

他の団体と連携し、障害者の職場を開拓する

地域社会への貢献を組み込む

今後取り組みたい業種

農産物一次加工品 レトルト商品 水産物加工品の活用

皆さんも挑戦したい業種を探してください！

【参加者の声】

- ・市場を計算する。読む。
- ・利用者に任せる
- ・利用者と職員が一緒になって仕事を作り、育てる…
- ・技術はプロから学べ！
- ・地域貢献も含めて展開を考えていくということ
- ・福祉の専門性だけでなくものづくりに関する専門性も身に着けていく必要性を感じました。
- ・新規事業開拓の際のヒント（ポイント）がわかりやすかったです。今日のお話を事業所に持ち帰り、検討したいと思いました。
- ・どの製品も食べてみたくまりました。
- ・うちの施設ではなかなか難しいと感じた。